

多摩消防団だより

第28号
発行
令和5年9月吉日
多摩消防団
広報部



多摩消防団長
井口 保

令和五年四月一日付で多摩消防団長に任命され、気がつけば三か月が過ぎました。前団長の増田朝光様におかれましては長きに渡り多摩消防団に対し、また多摩区の防火・防災にご尽力頂きまして誠にありがとうございました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて今年度はコロナ感染症対策、行動制限の緩和により多摩消防団の活動も四年前の活動等が出来る様になりました。もちろん感染対策をし十分に注意をして活動して参りたいと思います。ここ近年の日本各地での風水害等、消防団に対する地域住民の期待も大きく、また関東大震災から百年、いっどこで起こるか分からない災害にそなえ日々訓練を重ね多摩消防署、関係機関と連絡を密にし、区民の安心・安全な町を目指して参ります。

今後とも多摩消防団に対しまして、ご支援ご協力をお願い致しまして挨拶とさせていただきます。

全国統一防火標語

火を消して 不安を消して つなぐ未来

辞令交付式

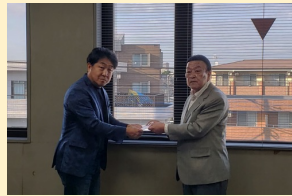
四月十五日、多摩消防署講堂にて、辞令交付式が行われました。井口保団長のもと、新副分団長や新部長、新班長、新入団員に対して辞令が交付されました。

また、退団された方にも辞令が交付されました。退団され方におかれましては、永年に亘り誠にありがとうございました。



多摩消防団役員

- | | |
|--------|--------|
| 団長 | 井口 保 |
| 副団長 | 井田 久 |
| 副団長 | 吉澤 偉臣 |
| 副団長 | 石川 秀明 |
| 庶務部長 | 木幡 義幸 |
| 警護部長 | 遠藤 厳留 |
| 消防部長 | 手塚 貴久 |
| 広報部長 | 大貫 欽也 |
| 稲田分団長 | 漆原 英樹 |
| 生田分団長 | |
| 稲田分団役員 | |
| 副分団長 | 田村 賢太郎 |
| 副分団長 | 吉澤 久裕 |
| 分団部長 | 榎田 良光 |
| 分団部長 | 淺谷 武 |
| 分団部長 | 森田 博史 |
| 分団部長 | 細田 知良 |
| 分団部長 | 早坂 新吾 |
| 分団部長 | 安藤 了 |
| 分団部長 | 新井 隆久 |
| 分団部長 | 田中 大輔 |
| 生田分団役員 | |
| 副分団長 | 藤井 修二 |
| 副分団長 | 田中 雅之 |
| 分団部長 | 高橋 宏行 |
| 分団部長 | 松澤 直人 |
| 分団部長 | 松澤 宏昭 |
| 分団部長 | 鈴木 勉 |



多摩消防団警護部長
木幡義幸

この度、令和五年春の褒章において藍綬褒章を拝受いたしました！このような名誉ある機会を頂き感謝申し上げます！

去る五月十五日皇居豊明殿にて天皇陛下の拝謁とともに温かい励ましのお言葉まで賜り感激いたしました！

消防団に入団して二十九目になりましたが、これまで私を支えてくださった消防団、消防署、地域の皆様、そして家族に感謝いたします！

これからも地域の防火防災に努め、消防団活動に努力していきます！



多摩消防団稲田分団長
大貫欽也

令和五年度より稲田分団分団長の重責をつとめることとなりました大貫欽也です。歴代の分団長のようには手際良くはできませんが自分なりに努力し、この稲田分団を引っ張りまわしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

感染症の自粛期間が緩和されてきて、今年度は多摩消防団消防大会をはじめ川崎市総合防災訓練の代表会場など多くの行事が自粛前のように予定されております。

区民の皆様には消防団の活動を見ていただく機会が増えてきますので、少しでも多くの方に消防団の活動にご理解や興味を持っていただき、また一緒に活動していただける仲間を増やせるよう稲田分団一同がんばって活動してまいります。まだまだ未熟な分団長ですがご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。



多摩消防団
山本 耕平

消防団に入団して日も浅く最初はどんな活動をするか分からなく、不安でしたが先輩方の丁寧なご指導のもと少しずつではありますが、活動内容や訓練の動きも覚えてきました。

今回選手ではないのですが、精一杯選手のサポートをしてきたと思いますので、いい結果が残ればいいなと思っています。

これからまだまだ覚えることも多く、未熟者ですが地域の方々の為に精進していきます。皆様の期待を裏切らぬよう頑張りますのでどうぞよろしくお願いたします。



多摩消防団
岡野めぐみ

はじめまして、岡野めぐみです。周囲からは「めぐみ」「おかめちゃん」と呼ばれています。中央大学法学部政治学科を卒業後、東京大学法科大学院を修了し入団。カリタス女子中高在学中には幅広いボランティアに携わりました。二〇二〇年熊本豪雨では球磨川が氾濫し、川縁の祖父母の家が屋根まで浸水。思い出の品が流れ、家中泥砂まみれになりました。昨今の激しい気候変動を受け、いつも多摩川もそうなるか分からない緊張感の中で、法律や政治を学ぶ最中、実務現場の消防士や消防団員の強さを痛切に感じました。これから多摩区にお住いの皆さんの安心安全を守るよう活動いたします。あなたの大切な人を守るように、日頃から一緒に備えましょう！

稲田分団操法大会



六月二十五日、川崎市消防訓練センターにおいて、四年ぶりに稲田分団操法大会が行われました。各地区の五班が集結し、訓練の成果を披露しました。井口団長は「団員の安全を祈ると共に日頃の訓練の成果を発揮する事」と激励。多摩消防署の村上署長は「団員が一致団結して、日頃の訓練の成果が見られたことを心強い」と語りました。



第二十一回多摩消防団消防大会

七月二日、川崎市消防訓練センターにおいて、第二十一回多摩消防団消防大会が行われました。稲田分団五班、生田分団四班の全九班が小型ポンプ操法の競技を行いました。当日は晴天で暑さが厳しい中、各班から選出された団員が日ごろの訓練の成果を発揮しました。優勝は中野島班、準優勝は宿河原・堰班、第三位は東生田班でした。また、女性消防団員による応急手当訓練も行われました。



祝 優勝	中野島班
祝 準優勝	宿河原・堰班
祝 第三位	東生田班



△小型ポンプ操法とは？▽
設置された防火水槽から給水し、火災現場を想定した火点（かてん）と呼ばれる的に目掛けてホース三本を展開し、放水、撤収するまでの一連の手順を指揮者、一番員、二番員、三番員、四名で行います。ポンプ・ホースなどの操作を速く正確に行うとともに、動きの綺麗さを競います。採点は各個動作の正確さ及び火点的が倒れるまでのタイムなどが減点法で採点され、減点が少ないチームほど上位となります。

優勝班班長挨拶

中野島班班長 石井 正宏

前回の大会優勝から四年が経ち、その間の三年間はコロナの影響で活動があまり出来ませんでした。コロナが落ちつき今期は大会があると言う事で班員と話し合いメンバーを選出して今期の大会に望みました。

訓練を積み重ねて行くうちに選手内で色々なこともありました。

それがきっかけで選手達もまとまり選手以外の班員達も一人ひとりが自覚を持ち、班全体がまとまった結果選手達が全力を出し切り優勝が出来たと思います。

祝 個人賞受賞者インタビュー

◎指揮者

古谷和之（中野島班）

新型コロナウイルスの影響により四年ぶりとなる多摩大会では今までの活動を思い出しながらの新しい選手を育てる大会となりました。

経験者、未経験者、初の番手、念願の選手起用などそれぞれの想いがぶつかり合う事もありましたが、同じ目標に向かい歯を食いしばり日々精進しました。

規律・節度、敏捷性、士気、安全性を追求し団員全員がチームの事を想い、力を合わせた結果が優勝！

そして全ての番手が個人賞を取る快挙に感極まりました。

優勝を勝ち得たのはチームのメンバーだけでなく、OBの方、指導員の方、団員、家族、そして訓練場所を提供してくれた地域の小学校などの協力があつたからこそ成し得た事だと思っています。

◎一番員

有井 旭（中野島班）

私は、入団三年目にして初めて操法大会を経験しました。指導員の方には言われたことをただやっているだけでいい。迎えた本番一番目で緊張しましたが、自分の中で一番良くでき、見事中野島班が二連覇に輝き、出場選手全員が個人賞を取り、完全制覇を成し遂げたとても達成感を得た一日でした。

◎二番員

佐藤理文（中野島班）

今回の長い訓練期間を通じて仲間とぶつかり合う事もありましたが、本音で語り合い、そして優勝を勝ち取り、最後には硬い絆を結ぶことができました。最後に、フライベートの時間を割いて駆けつけてくださったOBや指導員の方、縁の下で支えてくれた団員、そして家事すっぽかして夜な夜な訓練に出かける旦那を文句一つ言わずに送り出してくれた妻に感謝します。

◎三番員

松浦慎剛（中野島班）

今回多摩大会に向けて、チームの結束力を高めて優勝を目指していたのですが、想定以上の良い結果を生み出した事に本当に嬉しく思っております。チーム全員が個人賞を受賞し、完全勝利を成し遂げた瞬間に涙が溢れました。今まで悔しい思いも沢山してきました。芽も出ず、花を咲かせる事も出来ず、苦勞してましたが、その何倍も努力した結果が多摩大会の結果だと私は思います。



川崎市総合水防訓練

六月十六日に多摩川河川敷の二ヶ領せせらぎ館付近において、川崎市水防訓練が開催されました。水害による被害の防止、軽減のために積み土のう工法、シート張り工法、今年から新たに操船訓練が行われました。団員は実際に土のうを積んだりシートを張って、急な災害にも対応できるよう訓練を行いました。



狛江・多摩川花火大会

八月九日、狛江・多摩川花火大会が開催され、川崎市側会場の警備として多摩消防団が参加しました。当日は接近中の台風の影響もあり、不安定な天気で開催が危ぶまれましたが四年ぶりの開催を待ち望んでいた観客の気持ちを通じたのか、打ち上げ中に雨が降ることは有りませんでした。

打ち上げが始まる頃には警察による入場制限が掛けられ大変混雑していましたが大きな混乱も無く進行していきます、音楽に合わせて花火が打ち上がる「ハナビリューション」で締めくくられました。



多摩消防団広報部

- 本団広報部長 手塚 貴久
- 生田分団部長 鈴木 勉
- 稲田分団部長 浅谷 武
- 稲田分団部長 森田 博史
- 生田分団団員 岩崎 重雄
- 生田分団団員 米山 達也
- 生田分団団員 大木 康弘
- 生田分団団員 小峰 庸
- 稲田分団団員 上原 薫哉
- 稲田分団団員 須賀 大元
- 稲田分団団員 小泉 輝晃
- 稲田分団団員 古谷 和之
- 稲田分団団員 鈴木 泰一

編集後記

第二十八号発行、「多摩消防団だより」に際し、ご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

多摩消防団広報部一同

